

□ 下記画像はデータにて無料でご提供いたします

ご希望の際は下記の事項をご記入の上、メールにて当館までご連絡下さい。折り返しご連絡致します。お手数おかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

※サルバドール・ダリ作品は著作権料が発生します。掲載をご希望される場合は別途ご相談ください。

(1) 使用希望作品番号 (2) 会社名 (3) 担当者名 (4) 連絡先電話番号 (5) 掲載媒体名・番組名 (6) 発行日・放送日 (7) 発行部数  
担当 / 公益財団法人諸橋近代美術館 広報担当・久納(くのう) e-mail: s-kunou@dali.jp

NO.1



ピエール=オーギュスト・ルノワール  
《モーリス・ドニ夫人》1904年

NO.2



PJ クルック  
《レッドドア》1995年  
《グリーンドア》1995年  
©PJ Crook 2022

NO.3



アンリ・マルタン  
《牡丹の花瓶》制作年不詳

NO.4



フィンセント・ファン・ゴッホ  
《座る農婦》1884-1885年

NO.5



「ルームス」イメージ画像

NO.6



創設者：諸橋廷蔵(1934-2003)

□ メディア掲載における読者・視聴者プレゼント用招待券のご提供

情報をご掲載いただきました媒体各社様へ招待券(5組10名様)をご提供します。ご希望のご担当者様はメールにて当館までご連絡下さい。



取材や記事掲載にご協力賜りますようお願い申し上げます。  
お問い合わせ：公益財団法人諸橋近代美術館 広報担当・久納(くのう)  
e-mail: s-kunou@dali.jp tel:0241-37-1088 fax:0241-32-3332  
〒969-2701 福島県北塩原村大字松原字剣ヶ峰1093番23  
公式ホームページ <https://dali.jp>

諸橋近代美術館  
コレクションをめぐる6つの部屋。

ROOMS

ルームス

2022.7.25 MON ▶ 11.13 SUN

ダリ、ゴッホ、ルノワール・・・

諸橋近代美術館の

キュレーター  
6人の住人の部屋から見える

コレクションの新たなハイライト

諸橋近代美術館では、1999年の開館以降、スペイン・カタルーニャ州出身の芸術家サルバドール・ダリの作品を中心に、19世紀から20世紀の西洋近代絵画、イギリスの現代アーティストPJクルックの絵画を蒐集・所蔵し、特色のあるコレクションの形成を継続してきました。これらコレクションの礎は、創設者の諸橋廷蔵(もろはし・ていぞう 1934-2003)が築いたものであり、「広く多くの方に西洋近代美術の秀作の数々を鑑賞し、感動していただきたい」という創設者の想いは、今もなお美術館スタッフへと引き継がれています。

本展覧会は、これらコレクションを6人の住人の視点キュレーターを通し、『6つの部屋』に分けてご紹介します。鑑賞者の皆さんが部屋をめぐる中で、様々な作品や各部屋キュレーターの住人のメッセージに触れ、感動や驚きを覚え、またそれらの経験が、皆さんと美術館との繋がりを深めるきっかけになれば幸いです。

本展覧会を通して開館から24年目を迎えた諸橋近代美術館のコレクションの新たなハイライトをお楽しみいただけます。

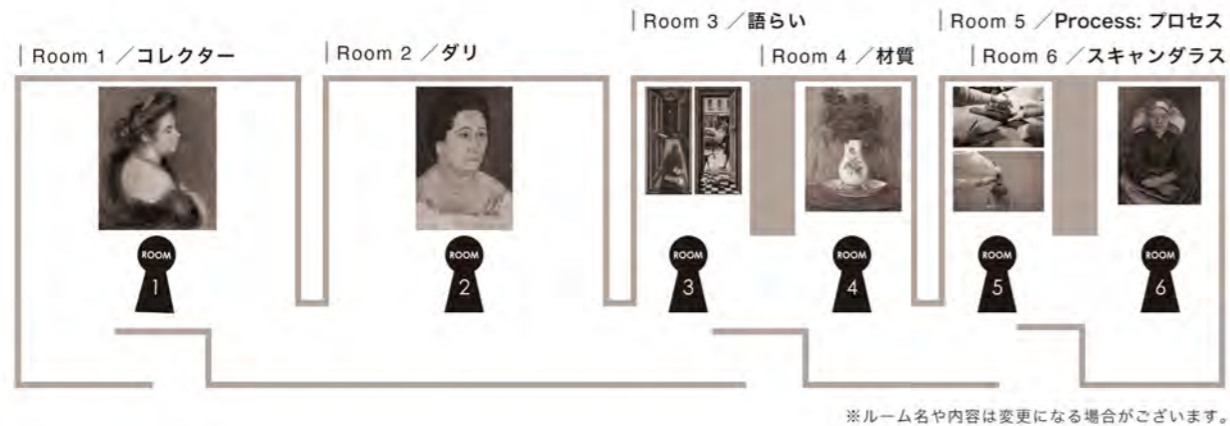


展覧会	コレクションをめぐる6つの部屋「ルームス」
主催	公益財団法人諸橋近代美術館
会期	2022年7月25日(月)～11月13日(日) 〓会期中無休〓 (112日間)
会場	諸橋近代美術館 福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峰1093番23
時間	9時30分～17時00分 (入館は閉館時刻の30分前まで)
観覧料	一般 1,300円(1,000円) 高校・大学生 500円(300円) 〓中学生以下無料〓

※()は20名以上の団体料金。他、教育施設対象の観覧料免除制度あり(要事前申込)  
※感染症対策に伴い団体受入れを見合せている場合がございます。事前にお問合せ下さい。  
※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳のご提示で所有者と付添い者1名は無料

※諸事情により会期・日程・内容が一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。

## 展覧会構成



### Room 1 / コレクター

当館の創設者の諸橋延蔵は1980年代後半から約25年に渡り、作品収集について独学し、自分の眼で厳選しながら、精力的にコレクションを形成してきました。美術館の開館4年目に他界しますが、その後も作品の収集は今日まで継続して



創設者：諸橋延蔵(1934-2003)

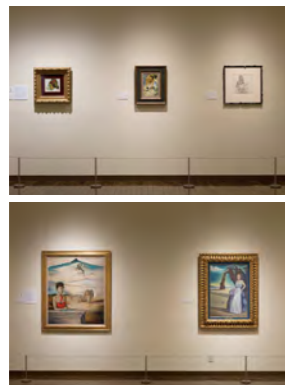
行われ、そして収集された作品は国内外問わず、美術館の展覧会に出品されてきました。コレクション生成の経緯や作品に対する思いなど、当時のエピソードなどを交えながら、改めて作品が辿ってきた軌跡と共に作品の魅力に迫ります。



ピエール＝オーギュスト・ルノワール  
《モーリス・ドニ夫人》1904年

コレクターの秘めたる思い、作品との関係

ダリをダリにしたものとは：



サルバドール・ダリ作品  
展示風景イメージ(過去の展覧会より)

### Room 2 / ダリ

当館のコレクション構成の中で最も数を占める、サルバドール・ダリの作品群。ダリはシュルレアリスムの代表格であり、緻密な描画で「超現実」の世界を描き出す作風が特徴の芸術家として広く認識されています。しかし、こうしたダリの典型的作風とはやや異なる初期や晩年の作品が充実しているという点は、当館のコレクションにおける最たる特徴であり、芸術家ダリの変遷とペルソナ(人格)を理解する上で重要な位置付けにある作品群と考えられます。この部屋ではコレクションを通して、ダリを形成した要素を探りご紹介いたします。

### Room 3 / 語らい

美術館で浸透しつつある「対話型鑑賞」は、作品を“誰もが”“楽しく”“深く”作品と人々の交流を味わうことができる鑑賞方法として、教育現場のみならず、ビジネスや介護の現場でも用いられるようになってきました。しかし、一般的にはファシリテーターを必要とするため、全ての来館者に楽しんでもらうには、大きなハードルがあります。そこで「語らい」の部屋では、鑑賞者が“次の”鑑賞者に「鑑賞」のバトンを繋いでいく、参加型・成長型「鑑賞」展示を実施し、作品を通して「時間」や「場」をも越えた人々の繋がりを築いていきます。



PJ クルック  
左：《グリーンドア》1995年  
右：《レッドドア》1995年  
©PJ Crook 2022

人と繋がり、鑑賞を育てる

作品を「材質」として見てみる



アンリ・マティス  
《牡丹の花瓶》制作年不詳

### Room 4 / 材質

展覧会で展示される作品のキャプションには、作品タイトルや作家名などの他、作品を構成する材質が併記されることがあります。この部屋では、当館所蔵コレクションを例に、各作品を構成する材料を通して作品を「材質」として観察し、各々の取り扱い方や保存方法など、物理的な側面から作品や展示方法を見つめ直します。

### Room 5 / Process: プロセス

ダリは自身の精神現象を執拗に分析し、着想したイメージを二次元の絵画空間に表し、さらに三次元で物体化させています。ダリの立体作品の特徴は、鑄造職人たちとの錬金術的な共同作業にあるといえるでしょう。複雑な構造は部位ごとに鑄造するため、展示の度に組み立て直すブロンズ作品があります。普段は関係者のみしか知るプロセス(工程)の面白さや隠れた魅力を動画で紹介しながら、実物作品とともにお楽しみ頂きます。あわせて、ダリが刷り工程を順に纏めた木版画もご覧いただけます。



サルバドール・ダリの立体作品展示風景より

制作のプロセス、展示の舞台裏

画家の秘めたるスキヤンダ



フィンセント・ファン・ゴッホ  
《産む農婦》1884-1885年

### Room 6 / スキヤンダラス

「巨匠」、「〇〇の父」、「〇〇の先駆者」など、異名で彩られた偉大な画家の経歴の背景にも、知られざる苦悩や葛藤、衝撃がありました。彼らも私たちと同じひとり人間であることを忘れてはなりません。この部屋では、人間誰もが抱える秘密や性癖、そしてスキヤンダラスな背景を作品とともにご紹介していきます。